



# 平成25年度事業紹介

協働事業・市民活動助成事業



松戸市

## はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

### **【協働事業提案制度】**

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

平成25年度は4事業実施しました。

### **【市民活動助成制度】**

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

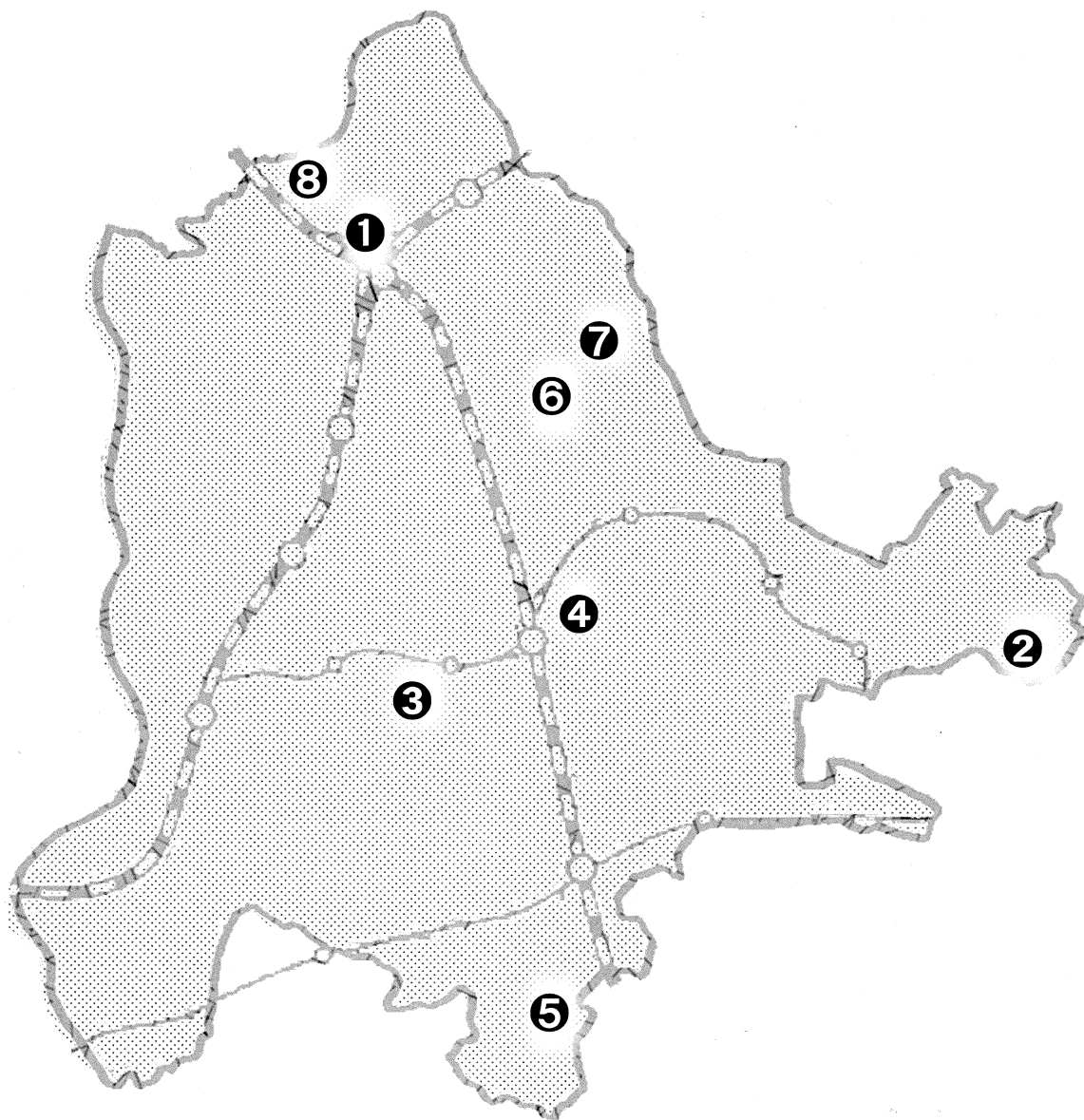
平成25年度は4事業実施しました。

# 目 次

## 平成25年度協働事業・市民活動助成事業 紹介冊子

【協働事業】.....			ページ
○ ゲット ユア ドリーム事業	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会Jワールド	子どもわかもの課 (事業実施時: 子育て支援課)	1
○ 昔のあそびとわらべうたⅢ事業	昔のあそびと遊ぼう会	六実支所	2
○ 家庭用廃食油回収による地域活性化事業	NPO法人 松戸エコマネー「アウル」の会	環境政策課 商工振興課	3
○ 松戸の農業をサポート・農業ボランティア 養成事業	松戸農業サポート協議会 野良の会	農政課	4
【市民活動助成事業】.....			ページ
○ 科学教室事業	エデンの園科学教室		5
○ 自主防災告知事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会		6
○ 自閉症・発達障害児者のための 療育パンフレット作成事業	NPO法人 まつど自閉症センター		7
○ 介護する人をリフレッシュ させてあげたい事業	NPO法人 Emiの樹ダイエツトフロンティア		8
● 協働のまちづくり基金について			9
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(平成25年度)			10

# 実施団体の活動拠点MAP



		団体名	活動拠点	ページ
協働事業	①	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド	新松戸	1
	②	昔のあそびと遊ぼう会	六実	2
	③	NPO 法人エコマネーアウルの会	稔台	3
	④	松戸農業サポート協議会 野良の会	日暮	4
助成事業	⑤	エデンの園科学教室	高塚新田	5
	⑥	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	小金原	6
	⑦	NPO 法人まつど自閉症センター	小金原	7
	⑧	NPO 法人 Emi の樹ダイエットフロンティア	横須賀	8

# 協働事業

<b>ゲット ユア ドリーム事業</b>	<b>協働事業者</b>	<b>特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド</b>
	<b>事業担当課</b>	<b>子どもわかもの課 (事業実施時 子育て支援課)</b>

## 【事業内容】

### 平成 25 年度事業の取り組み

対象：松戸市内在学・在住中高生

目的：自分の将来について積極的・前向きな若者が増える。

方法：様々な職業や経歴を持った大人との交流の場を持つ。

《具体的な活動》

- 6月・10月・1月にワークショップを開催した。  
普段は交流することのない他校生と一緒に、実際に現場で働いている大人から仕事紹介や、どうしてその仕事を選んだのか、困難にぶつかったことや、やりがいを感じた話を聞き、夢をつかむために必要なことを語り合い、発表する。
- 参加者の同窓会、クリスマスパーティ、新年会を開催し、継続した交流を持つ。
- ワークショップがより効果的に行えるようにファシリテーターの指導を受ける。

事業費	454,252 円
自己資金	127,514 円
	(労力換算額：314,500 円)
負担金	326,738 円



### 平成 25 年度事業の成果

- 参加者 6月：21名、10月：31名、1月：15名、講師各8名。参加者は講師の話聞いて、自分の夢や将来について考え、あきらめないことの大切さを学んだ。
- ワークショップでは自分の考えを語り合うだけでなく、今からできることを発見した。
- 継続参加者が自らリーダーシップを発揮し、活気あふれたワークショップとなった。
- 去年に引き続き、県立松戸向陽高校での開催、さらに新松戸地区でも開催し、計3回のワークショップを行った。
- 新たな講師17名が参加され、松戸市の中高生を地域の人々が支えるつながりがさらに発展した。

### 【協働事業者紹介】

子育て支援、居場所づくり：乳幼児期から思春期までの子育て中の親と子どもの支援、子どもが安心して成長できる健全な環境・居場所づくりを行っている。

- ・「ユースペース」…中高生が自由に過ごせるフリースペース。平日夕方になると中高生が「ただいまー」と集まってくる。宿題や将棋、楽器の練習など、自由に過ごしている。彼らの話にゆっくり耳を傾け、いろいろな相談にも乗っている。夏には、「里山草刈り応援隊」として自然体験も実施している。
- ・26年度から被保護者学習支援事業(生活支援課委託)が始まった。
- ・「Jキッズ」…小学生対象。ボランティア活動を通して、子ども達の思いやりと自主性を育てる。
- ・「おやこDE広場旭町」…主に0歳から3歳を対象にした親子の遊び場(松戸市委託事業)

《問合せ先》 特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド

松戸市新松戸 4-257-1 ニューホームズ第一マンション1階

ホームページ <http://kosodate-hiroba.com> メール [j\\_loveties@yahoo.co.jp](mailto:j_loveties@yahoo.co.jp)

電話 047-344-0544 (SRCビル内) 担当 三浦

## 協働事業

昔のあそびとわらべうたⅢ事業	協働事業者	昔のあそびと遊ぼう会
	事業担当課	六実支所

### 【事業内容】

#### 平成 25 年度事業の取り組み

核家庭化の影響からか親から子、子から孫へ遊びを教えられる人が少なくなってきました。

また、老人・青年・子供の世代にまたがりコミュニケーション手段がなく、一緒に楽しめることが無くなってきています。

「昔の遊び・わらべうた・わらべうたあそび」を広めることにより、親と子、孫との共通の話題作りを提供できるようになり、地域の世代間交流ができるようにします。

さらに地域住民全体に輪を広げていくことにより地域の活性化に寄与できるものと確信します。

事業費	359,455 円
自己資金	82,900 円
(労力換算額)	504,000 円)
負担金	276,555 円



平成 25 年 4 月 6 日六実桜祭り



平成 25 年 10 月 27 日六実っ子まつり

#### 平成 25 年度事業の成果

##### 1 講習会参加した人員は

講習会 4 回開催し（参加者：各 35 人、47 人、41 人、51 人 平均 43.5 人）となっています。

##### 2 六実桜まつり、六実っ子祭りでの参加人員は

六実桜祭り：300 人の参加、六実っ子まつり：小中学校生合せ 300 人の参加がありました。

##### 3 他団体とより緊密に連携化し、地域の活性化については

常盤平児童館、子育て支援ぽこら、献灯まつり、松戸図書推進センター等と一緒に連携して地域を盛り上げることができたと感じています。

#### 【協働事業者紹介】

- 毎月第 1 土曜日 13 時 30 分から六実市民センターで活動（自由に参加可）
- 毎月第 3 土曜日 14 時から六実市民センターで「六実けん玉教室」を開催（けん玉の初心者、上級者ふるって参加下さい。段位認定も可）

《問合せ先》昔のあそびと遊ぼう会

電話・FAX 047-387-1522

会長 白石 彌登美

<b>家庭用廃食油の回収による 地域活性化事業</b>	<b>協働事業者</b>	<b>特定非営利活動法人 松戸エコマネー「アウル」の会</b>
	<b>事業担当課</b>	<b>環境政策課・商工振興課</b>

【事業内容】

**平成 25 年度事業の取り組み**

従来、家庭から出された廃食油は燃やせるごみとして市内の焼却施設で処理されるのみでした。

しかし、廃食油は回収・精製することによって、石鹼やディーゼル車の代替燃料（BDF）として再利用できます。

そこで、「アウル」の会では平成 21 年 7 月から廃食油の回収事業を開始しました。

この事業は市民が廃食油を回収拠点に持ち込むと、廃食油 500cc につき地域通貨（エコマネー）10 アウル券 1 枚と交換することができ、交換したアウル券は 10 アウル＝10 円の買い物券として、協賛店で使用できることから、廃食油を回収することによりごみの減量に寄与しながら、アウル券（エコマネー）を地元の協賛店で流通させることで、地域の活性化につなげようというねらいがあります。

また、アウル券の交換は廃食油の回収のみならず、環境美化に取り組むボランティア団体や、地域の安全を守るスクールガードの取り組みなどにも行っています。

平成 23 年度からは松戸市との協働事業として展開しています。市と協働することによって広報まっどの掲載や、商店会への働きかけなど、「アウル」の会単独では達成しがたい多くの市民への PR 効果が期待できます。

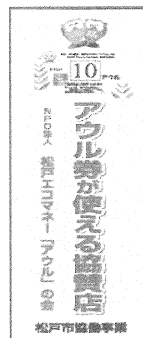
これからもごみの減量と地域活性化を目指し、事業担当課である環境政策課・商工振興課や、事業の趣旨に賛同いただいた地元商店と一体になって事業を進めてまいります。

事業費	196,483 円
自己資金	40,000 円
（労力換算額）	236,250 円
負担金	156,483 円

**平成 25 年度事業の成果**

平成 25 年度の廃食油の回収量は約 2,300ℓ で平成 24 年度の約 1.7 倍となり、平成 21 年 7 月からの累計は約 5,000ℓ に達しました。平成 25 年度末現在、回収拠点は 18ヶ所、協賛店は 43ヶ所に拡大し、アウル券は 1,553 枚配付しましたが、協賛店での使用は 465 枚にとどまりました。

より多くの廃食油を回収し、アウル券を流通させるためには、回収拠点や協賛店を市内一円に拡充することが不可欠です。事業担当課の協力を得ながら市民や地元商店会に更に働きかけてまいりたいと思います。



【協働事業者紹介】

平成 15 年 1 月に設立し、平成 16 年 6 月 NPO 法人格を取得。

「ありがとうが行ったり来たり」を合言葉に会員相互のサービスのやり取りからスタートしました。

平成 21 年 7 月から家庭用廃食油の回収による地域商店街の活性化事業に取り組んでいます。

《問合せ先》 松戸エコマネー「アウル」の会  
 住所 松戸市稔台 7-7-13 (株)ダイエックス内  
 E-mail [matsudoowl@s3.dion.ne.jp](mailto:matsudoowl@s3.dion.ne.jp)  
 ホームページ <http://homepage2.nifty.com/matsudo-owl/>  
 事務局電話&FAX 047-365-0980

# 協働事業


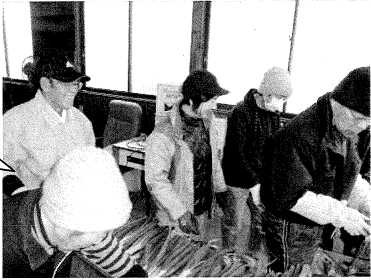
<b>松戸の農業をサポート 農業ボランティア養成事業</b>	協働事業者	<b>松戸農業サポート協議会 野良の会</b>
	事業担当課	<b>農政課</b>

【事業内容】

<p><b>平成 25 年度事業の取り組み</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 農業ボランティアについての周知・広報</li> <li>2 農業ボランティアの募集・養成</li> <li>3 受入れ農家の募集</li> <li>4 農家とボランティアのマッチング</li> <li>5 ボランティアの派遣</li> </ol>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">269,401 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">119,461 円</td> </tr> <tr> <td>(労力換算額)</td> <td style="text-align: right;">223,000 円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">149,940 円</td> </tr> </table>	事業費	269,401 円	自己資金	119,461 円	(労力換算額)	223,000 円	負担金	149,940 円
事業費	269,401 円								
自己資金	119,461 円								
(労力換算額)	223,000 円								
負担金	149,940 円								

5 期の皆さん  
堆肥散布実習

5 期の皆さん  
矢切ネギの出荷  
調整実習

**平成 25 年度事業の成果**

- 1 昭和の日、松戸まつり、勤労感謝の日、見本市で広報活動 ボランティアのべ 30 名参加
- 2 4 期生 6 月募集会員登録 9 名、5 期生 12 月募集会員登録 16 名・・・合計ボランティア数の目標 30 名 →53 名となった。  
現地講習会・・・4 期生、5 期生ともに 3 日間、農家で講習・指導を受けた。
- 3 受入れ農家の募集 新規 3 戸農家会員合計 10 戸の農家会員目標 10 戸を達成
- 4 マッチングは毎月 25 日開催、シフト検討会は毎月マッチング検討の後、開催
- 5 ボランティアの派遣は農家の派遣希望日数の 80%程度で推移
- 6 その他ボランティア研修会を開催・熱中症対策ワークショップ開催 (対象・全会員)

**平成 26 年度事業の目標**

- 1 「市民参加型農業ととらえ持続・拡大可能なシステムの仕組み作り！」を進めます。
- 2 農家の人手不足をサポートするボランティアを育成します。
- 3 農作業で大地に触れる喜びを感じる活動です。
- 4 松戸の農業の理解する場を提供します。

☆ボランティア数、受入れ農家数目標  
平成 26 年 ボランティア 55 名  
受入れ農家 15 戸

☆受入れ農家作付面積の増加目標  
平成 26 年 受入れ農家 15 戸  
作付面積 15ha

【協働事業者紹介】

設立年月日：平成 23 年 12 月 1 日

会 員 数：ボランティア 53 名 (女子 23 名、男子 30 名)、農家 10 戸、事務局 6 名 計 69 名

活 動 地 区：松戸市内、受入れ農家農地所在地

《問合せ先》松戸農業サポート協議会

野良の会 会長 笹山 誠二

電話：047-384-0429



# 市民活動助成事業

<b>科学教室事業</b>	<b>団体名</b>	<b>エデンの園科学教室</b>
---------------	------------	------------------

【事業内容】

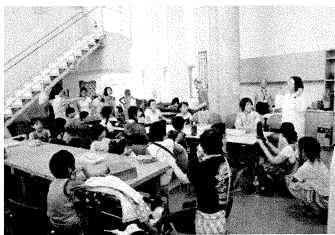
**平成 25 年度事業の取り組み**

◎開講当初は2年目ということもあって、担当者であるボランティアも次第に慣れて積極的に講座に参加されてきた。それが児童にも伝わり、回を重ねるごとに馴染みの顔ぶれになってきたことが効果の現われとなったと思う。

◎特に今年の課題として

- 1 アンケートは若干本音と異なることがある為、一人ひとりに感想を講座の最後に起立し発表してもらった。その結果はイエス、ノーとは違って何処がどう面白かったのか質問に答えてくれたのでより内容の濃い意見を聞くことが即座にでき、次回の講座に反映できた。
- 2 実験を重視した。講座ではそのつど工作をするが玩具を作ってそれがお土産になっては教室本来の目的に外れるとの思いもあって準備その他で多くの作業が増えたがサイエンスショーとして会員にも好評で見学者にも面白いという言葉をいただいている。

事業費	190,600円
自己資金	90,600円
助成金	100,000円



**平成 25 年度事業の成果**

年間10回の開催を目標としてきたが、概ね回数は達成した、その間記録的な猛暑で心配したが、参加者、付き添いの方々、またボランティアの皆さんが全員事故も無く開講できたことは先ず特記したい。また、回を重ねるにしたがって、お互いに親近感から挨拶も大きな声でできるようになったのは、開閉講時の挨拶を全員で声を張り上げて挨拶を交わすことを繰り返したことではないだろうかと思っている。

このこと以外でも映画などで見られる寺子屋、藩塾などでの行儀作法など少しでも自然に身につけてもらえたらとできる限り教えている。

成果といえば、一気に上昇が見られなかったのは残念だが、多くの児童がまた来たいという声を聞いたのは経験上講座の効果があつたと認識している。

仮に20人が来ても20人全員が科学者になるわけではなく、他の分野でも同じことが言えるのであって、数学が得意であっても必ず数学の道に進むとは限らず、親の意向に従うのが大多数であるから過大な期待は寄せられないと思っている。

【事業者紹介】

資源小国のわが国は今後科学を主とする頭脳立国を目指すべきではとの思いもあって次世代の子供が科学に親しめるよう、併せて世代間の、さらには地域の皆さんと交流を目的とした団体で現在松戸ニッセイエデンの園（松戸市高塚新田）の入居者12名を中心に活動しています。

《問合せ先》

松戸市高塚新田 123-1 エデンの園科学教室 代表：山本 喬

メール：[sanponkyo@nifty.com](mailto:sanponkyo@nifty.com)

# 市民活動助成事業

<b>自主防災告知事業</b>	<b>団体名</b>	<b>栗ヶ沢中学校地域防災委員会</b>
-----------------	------------	----------------------

## 【事業内容】

### 平成 25 年度事業の取り組み

本委員会は、大震災時の栗中地域の松戸市指定収容避難所の円滑な運営と地域内の要援護者支援対策を目標としている。課題は多々あるが、特に危機的と思われるのはほとんどの地域住民が松戸市の防災計画を全く認知していない事実である。一般に災害後三日間は公的支援が届かず、地域住民の自助、特に各自における食料や水の備蓄（自主的備蓄）は必須である。松戸市防災計画はこの自主的備蓄を前提とした上に構築されているが、残念ながら現実にはこの前提は成り立っていない。このような状態で大災害に直面した場合、苦しい現実には直面するのは想像に難くない。よって、自主的備蓄を要求している松戸市の防災計画を地域住民に周知し、自主的な行動を促し、来るべき災害に備えてもらう事が本事業の目的である。

事業費	125,973 円
自己資金	25,973 円
助成金	100,000 円

この目的を達するため今年度は、地域住民への松戸市防災計画の告知、有識者による自主防災の重要性に関する講演会の開催、地域住民との収容避難所開設訓練、自主的備蓄に関するアンケート調査を行った。



### 平成 25 年度事業の成果

備蓄に関するアンケート調査、二度の講演会、地域住民との収容避難所開設訓練、および防災に関する「栗防通信」を発行する事により、防災に関する我々の事業は地域の認知度を高める事ができた。ひいては防災に関する告知は年度当初に比べ一定の効果があったと考える。

### 平成 26 年度事業の目標

引き続き、防災に関する告知を行い、地域住民の認知度を上げて行く。同時に、収容避難所の開設運営では手引きの作成と同時に、訓練を行い、運営側と避難側、ともに練度を上げていきたい。

## 【事業者紹介】

栗ヶ沢中学校地域防災委員会 (栗防)

参加町会・自治会・参加学校・団体

小金原 5 丁目、小金原 6 丁目 7 番住宅組合、小金原 7 丁目東、小金原 7 丁目西、小金原 8 丁目  
小金原 9 丁目、小松園、栗ヶ沢連合町会

栗ヶ沢中学校、栗ヶ沢小学校、貝の花小学校、民生委員・児童委員松戸市小金原地区協議会  
6 丁目 7 番住宅組合高齢化対策専門委員会、小金原おやじの会

《問合せ先》 栗ヶ沢中学校地域防災委員会

メール：[kuri.dpc.root@gmail.com](mailto:kuri.dpc.root@gmail.com) (栗防メールアドレス)

電話：047-330-4704

# 市民活動助成事業

<p align="center"><b>自閉症・発達障害児者のための 療育パンフレット作成事業</b></p>	<p align="center">団体名</p>	<p align="center">NPO法人 まつど自閉症センター</p>
--	---------------------------	--

**【事業内容】**

**平成 25 年度事業の取り組み**

平成 17 年「発達障害者支援法」、平成 19 年「特別支援教育」と自閉症・発達障害に関する法律が次々に施行されて以来、正に発達障害が「バブル」、「ブーム」という時代になってきた。

そんな中、自閉症・発達障害に関する障害名、特性などの認知は広がりつつあるが、その障害のわかりにくさから、自閉症・発達障害の人達は、地域生活の中で十分な対応が受けられないばかりか、誤解、無理解から不利益を受けている場合も多々ある。

このような現実の中では、発達障害児者を主に養護する親の情報収集力と判断力が、この人たちの予後の姿を大きく左右しかねない状況である。近年の情報化社会のおかげで、誰もが必要な情報をインターネットから取り出せるようになってはきたが、逆にその情報量の多さに翻弄され、本当に地域に密着した『使える情報』を得ることが困難になってきた。発信側が受け取る側のニーズを考慮し、地域に密着した情報の内容、発信の手立てを考える必要がある。

自閉症・発達障害のある人たちも、健常者も、誰もが情報量や取り巻く環境に左右されず、自分のニーズに合った暮らしを選択し、その人らしく地域で暮らしていける松戸市にしたいとの願いから平成 25 年度は以下の事業に取り組んだ。



- 1 自閉症・発達障害児者のための療育パンフレットの作成 (本助成該当事業)
- 2 パンフレットの配布と自閉症・発達障害フェアの開催 (本助成該当事業)

**平成 25 年度事業の成果**

ガイド (療育パンフレット) は「見易さ・解りやすさ・手に取りやすさ」を追求しデザイン・作成した結果当初の計画の 10 倍近い部数が印刷できた。そのため配布数も予定より大幅に多くなった。(印刷部数 9,500 部内現在の在庫約 500 部)

フェアについては、ポスターチラシの印刷日程の関係上広報期間 1ヶ月以下と厳しい状況下であったが、各実行委員の協力により「広報まつど」や「地域新聞」にも掲載されたためか、大人・子どもを合わせ推定 350 名程度の来場者があった。

**【事業者紹介】**

NPO法人まつど自閉症センターは、自閉症を持つ人の保護者が集まり「学齢期を過ぎた自閉症の人たちの日中活動の支援」を目的に設立し、福祉作業所の活動を皮切りに、地域活動支援センターとなり、今年度からは生活介護事業を開始している。

松戸市内とその周辺に生活する、知的障害や自閉症・発達障害を持つ人たちとその家族の支援を目指し平成 23 年より地域の専門家、支援者と連携し「松戸療育・自立支援研究会」を立ち上げ調査・研究を行い、平成 25 年度の活動へ繋がった。

《問合せ先》NPO法人まつど自閉症センター

電話 047-383-5551

松戸市障害者団体連絡協議会事務局内 (担当：とみなが)

<p align="center"><b>介護する人をリフレッシュ させてあげたい事業</b></p>	<p align="center">団体名</p>	<p align="center">NPO 法人 Emi の樹ダイエツトフロンティア</p>
---	---------------------------	--

**【事業内容】**

**平成 25 年度事業の取り組み**

「被介護者、各種福祉施設利用者にとって本当の幸せとは。本当の安全とは。」を解決したいと考えました。そのためには、介護者のからだと心の健康の必要性を感じました。

超高齢社会といわれる現在の日本。そんな中、福祉に関わるきびしい現状が取り沙汰されています。会員の中にも介護関係者がおり、「同僚の多くは介護の仕事に疲れてもうクタクタです。働いたお金は整体へ飛んでいっています。自分で癒せる体操をみんなに教えてあげてください。」と声をかけられたことがきっかけで、何かできることがあるのではと考えることとなりました。

また、実母が入所している施設でのサービスに対して、その誘導の方法や見守りの仕方、機能維持改善方法等々、生活全般を見ると、はたしてその介護方法は本当に被介護者の幸せにつながっているのだろうか、介護する方の体力も必要以上につかっているのではないかと、という疑問ができたことも取り組みのきっかけです。

《具体的活動内容》

- 1 介護に役立つ運動指導法の講演と実習
- 2 体を知ることと介護する方のリフレッシュ方法、セルフケア方法の実践
- 3 栄養と食の理論と実践指導（調理実習含む）



事業費	168,400円
自己資金	68,400円
助成金	100,000円

**平成 25 年度事業の成果**

- 1 定員 20 名を上回る参加希望となるように目標設定しました。前期は 30 名近くの申し込みでキャンセル待ちまで発生しました。後期は定員までは達しませんでした。
- 2 介護者・被介護者すべての方が心と体をリフレッシュし、お互いに幸せな方向に動いていることを目標設定しました。参加者からは総じて良い感想を得ることができました。被介護者からのアンケートは依頼できませんでしたが、現場で活用した方からは良い反応だったことと、ご自身が指導することに慣れていないため、うまくできなかったかもしれないなどの感想を後ほどいただくことができました。

**【事業者紹介】**

平成 24 年 2 月総合型地域スポーツクラブとして認知され横須賀・新松戸地区を軸に本格的な活動に入りました。Emi の樹スタジオでの健康指向のエクササイズレッスンを核として、各種イベントやスキーに取り組んでいます。

平成 24 年度にはスポーツアロマコンディショニング講習会開催

平成 24 年 7 月 21 日他市デイケアでの介護・運動指導月に 1～2 回、

平成 24 年 9 月 22 日・平成 25 年 1 月 26 日ノルディックウォーク講習会 2 回開催

平成 25 年 3 月 2 日筑波大学田中喜代次教授講演会開催などのイベントを開催

平成 25 年度は、地域の幼稚園保護者対象の健康体操教室も開催しました。

また、ぴゅあスキークラブとして千葉県クラブ対抗選手権 4 連覇中でレベルの高い競技スキークラブとしても活動しています。

《問合せ先》NPO法人 Emi の樹ダイエツトフロンティア

電話・FAX 047-340-1663

ホームページ <http://eminoki.com> メール [nposports@eminoki.com](mailto:nposports@eminoki.com)

担当 内田恵美

# \* 協働のまちづくり基金 \*

平成25年度は **市民活動助成事業**

**4事業** を応援しました!!



科学教室事業

(P.5)



自主防災  
告知事業

(P.6)

自閉症・発達障害  
児者のための  
療育パンフレット  
作成事業

(P.7)



介護する人を  
リフレッシュ  
させてあげたい  
事業

(P.8)




## 【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

HP [松戸市トップページ](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html)>くらし>市民活動>協働のまちづくり(市民活動の活性化と協働の推進)>協働のまちづくり基金

[http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou\\_machidukuri/kikin/index.html](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html)



# 協働のまちづくり基金 寄附者一覧 (平成25年度)

ご寄附頂きました皆様にお礼申し上げます。

★東京キリンビバレッジ株式会社 柏営業所

★ジェイティエースター株式会社

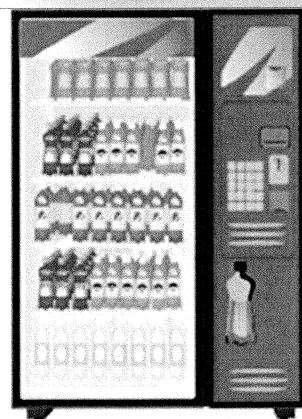
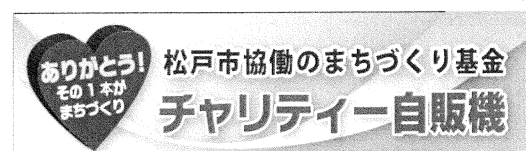
★利根コカ・コーラボトリング株式会社 松戸支店

★洗濯屋あべ

★株式会社 八洋 柏営業所

※公開希望のみ掲載

(申込受付順)



平成26年5月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail [mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp](mailto:mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp)